

秋季簿記インカレ 個人2級で2人優勝

11月に行われた2007秋季全国大学簿記大会個人戦2級の部で、富樫和之さんと大野慎也さん(いずれも商1)が優勝した。

12チームが参加し「体育祭」

12月8日、生田キャンパスで体育祭が行われ、12チームが参加。バスケットボールで汗を流した=写真。



◀New Gound -新しい見方 <20>▶

「大学の在り方」—日々をどう過ごすか—

吉川 悠亮(経済1・ジャーナリズム研究会)

さまざまな面における高校と大学との違いに日々、驚かされながら、気づけば今年も残りわずか。昨年は長く険しい受験の道が無我夢中で走り抜け、ようやくたどり着いた「大学」という名のゴール。しかしそのゴールは一時的なもので、時は残酷にも、息つく暇なく「就職」という新たな試練を与える。上級生達がスーツを着て就職活動に勤しむ姿は、その厳しさを私に思い知らせているかのようだ。

さて、皆さんにとって大学とはどのような存在だろうか。大学の最も重要な役割として、将来、社会人となる私たちに必要な教養や礼儀を伝え、皆それぞれが理想に抱く職場で働けるようサポートしてくれる場所だと私はとらえている。もちろん、一生の財産となる友人を作ったり、部活動やサークルに参加して自分の新たな一面を発見したりと、大学の存在は大きなものである。だが果たして、大学はその最も重要な役割を皆さんに果たしているだろうか。私には、多くの者にその役割は果たされていないように見える。しかしその要因は大学ではなく、私たち自身にある。

まず普段の大学での生活を思い描いてほしい。とりあえず授業に出て、単位が取得できればそれでいいと思っていないだろうか。もし、大学に安易な思いで入学し、一日一日を無駄に過ごすようならば、自らが描く将来の理想をかなえるなど不可能である。大学は高校までの学業とは違い、積極、進取の姿勢が求められる。積極的に学業に取り組むほど、大学の強力な後押しを受けることができ、逆に消極的な受け身の姿勢でいればいるほど、大学での時間は無意味と化し、墮落した人生になりかねない。大学全入学時代と言われ、大学が身近な存在となった今だからこそ、私たち学生は大学の存在意義を考え直し、だれにも負けない強い意志を持って大学と向き合う必要がある。社会へ飛び立ってから後悔しないためにも…。

《マンガ》

(漫画研究同好会)

